

# 和白干潟・奈多松林の自然を守ろう

- 和白干潟は、都心の干潟として、全国的に珍しく、多様な生態系を有する自然あふれる場所です。
- 一方、奈多の松林も、防風林の役割もあり玄界灘を望む自然豊かな場所です。
- 地元の多くの方々により、故郷の自然が守られています。
- 特に、都心の自然は、ありのままのままの人手により守られた自然です。



- 和白干潟のあり方で、自然破壊するな、生態系に影響するから、何もするな、自然のままにしておいてくれ、極端ですが、人より自然を優先すべきと言われる方もおられます。
- では、自然とは何なのでしょうか。都心にある干潟や松林は、ありのままの自然（原生林）ではないと思います。人の知恵と人の手を加えることによって、守られた自然だと思います。
- 例えば、奈多の松林は、塩害や温暖化対策として、400年前に黒田長政公による人工の植林が始まりで、
- この松林は、人工によるものですが、私は、自然だと思っています。

# 今林ひであき 市政報告

【発行者】
福岡市東区 塩浜一丁目16-25
今林ひであき事務所
TEL. 092-605-6515



## 和白干潟の記憶

- 和白干潟近隣は、500年前は塩造りの塩田地帯であり、私の小さい頃は、夏は海水浴、冬は海苔網が張り巡らされ、うなぎ仕掛けや潮干狩りが出来ました。
- 「海猫」という鳥がたくさんいたと思っていましたが、長老曰く、葱畑を荒らす鳥は、狩猟でいなくなつたと言われます。
- その後、高度成長・本市の発展に伴い、生活排水によるヘドロ汚染で生態系が乱れましたが、下水道の完備により徐々に改善されています。
- しかし、未だに、ヘドロ・悪臭が残つています。
- 現在、地元漁業関係者・ボランティアの皆さんのご努力があり、海底耕うん・微生物でのヘドロ分解、アマモ養場、稚魚・稚貝放流などを行ない、自然を取り戻そうとしています。
- 私は、これは、ありのままの自然ではなく、人の生活（塩田・海苔網・生活排水）の中で、人の努力により、取り戻そうとする自然だと思います。

## 和白干潟のワイルズユース

- つまり、和白干潟近隣は、人が住まない、電気・上下水道もない所ではありません。都市の進展と共に形成されたものです。
- 仮に、人を排し、自然を守るため、ありのまま自然で、保護を求めるならば、今の和白干潟は荒廃すると思います。
- 自然保護団体のウェットランドフォーラムによれば、ワイルズユースとは、自然の恵みを未来の子どもにつなぐため、漁業・農業・憩い・レクレーション・伝承文化との共存だと言われます。
- 実例として、5年前から、潮干狩り教室を開催し、人の手による、アサリの調査・保全に取り組まれており、共感する部分があります。
- 新型コロナのように新たな感染症の発生が予測されており、何らかの対策が必要だと思います。
- これからも皆様方の声を、届けてまいりたいと思います。
- 全国的に鳥インフル感染症が発生しています。
- ・ R2年に、福岡県で発生確認
- ・ R3年には、本市で2件
- ・ 可能性のある野鳥死骸を発見
- ・ R4年12月、海の中道公園でコブハクチョウでの発生確認
- ※市の担当課からは、濃密接觸等があつた場合を除き、人には感染しないとのことです。
- 野鳥の死骸に触らないように、もし触った場合は手洗い・うがいをするよう注意喚起しています。